まちの魅力探訪

音楽大学があるまち・庄内

豊中市の南部に位置する庄内地域は、昔ながらの気さくな下町情緒や駅前の賑わいに、大阪音楽大学（庄内幸町・以下、大阪音大）の洗練された雰囲気が入り混じる魅力的なまちです。平成27年（2015年）10月15日に大阪音大は創立100周年を迎えました。音楽を核にした地域と大阪音大の連携の取り組みを紹介します。

楽器を背負った学生が行き交うまち

大阪市内で創立した大阪音大が庄内へ移転したのは昭和29年（1954年）。3年前に阪急庄内駅が開設したばかりで、豊中市と合併する前の庄内町だったころのこと。大阪音大が創立100周年を記念して展開するWeb年表によれば、「あたり一面は畑で、現在市道となっている北側の土堤に沿って、幅2mほどの小さな川が流れていたという。土堤の上では牛が遊んでいる、のどかな農村風景が広がっていた」とのこと。そんな庄内が住・工・商の混在するまちに一変するのは高度経済成長期。大阪市に近く工業用水を得やすい環境もあり、工場の集積と宅地開発が急速に進みました。

昭和37年から庄内西口商店街で理髪店を営む前田実さんは、「昭和30年代には建売住宅や文化住宅がどんどん建ち、それにつれ商店街も大きくなり、数多くの飲食店や娯楽施設が立ち並ぶようになりました。昭和40年代は庄内に一番活気があったころ。居酒屋やスナックなどが並ぶ盛り場もにぎやかで、〝夜がない町〟と言われたくらい。そんな下町に楽器を背負った学生がたくさん通っていました。夕方には学校帰りの女子学生と、飲食店に出勤する女性たちが行き交い、いっそう華やかな雰囲気でした」と振り返ります。

現在の大阪音大校舎のあたり。
一面畑で、シャクシ菜の栽培が盛んであった

庄内西口商店街会長の北田雅彦さんと妻の麗子さん

大きな楽器を背負って、歌いながら歩く学生さんがいるのが、庄内の日常風景
もっと連携を深めて
まちを盛り上げていきたいです

身近で音楽と触れ合える地域づくり

豊中市は、平成23年に大阪音大と包括協定を締結し、「とよなか音楽月間」、「サウンドスクール」、「市民ロビーゆうゆうコンサート」など、音楽を核に様々な連携事業を展開しています。

毎年、庄内公民館で開催する「3歳からのミュージカル」もその一つ。今年は学生有志10名で結成する〝どれみふぁ♪ぱれーど!〟が「ちょっとおかしな!? シンデレラ」という音楽劇を上演。手拍子やクイズ、ダンスで会場が一体となって楽しめる舞台に、参加した約40組の親子は大満足でした。

作・演出・主役の三谷晴佳さん（声楽専攻4年）は「豊かな感性を育む音楽に、幼いころから接する機会をどんどん提供していきたい。庄内のイベントでは、良い点も悪い点もはっきり感想を言ってくださる方が多くて、とても励みになります」。ダブル主役の王子役・得丸黎大さん（大学院声楽専攻1年）は、「学生主催のオペラなど、地域の協賛で成り立っている演奏会もあります。商店主の方たちの〝まちを音楽で盛り上げていこう〟という気持ちに私たちも応えていきたい」と話してくれました。

「3歳からのミュージカル」（庄内公民館）

「大阪音大の学生さんたちが上手に盛り上げてくれるので、すごく楽しかったです」（保護者）

「お歌が好き。クイズが楽しかった」（4歳男の子）

「いっぱい踊れて楽しかった」（3歳女の子）

大阪音大〝100周年〟をみんなでお祝い

地元庄内では、地域の個店や企業、NPOの人たちが協力して、創立100周年をともに祝い、またこれをきっかけに市内外からもっと庄内に訪れてほしいと、様々なキャンペーン事業を進めてきました。

そのひとつは、庄内西口商店街を中心に駅周辺の55店舗が参加した「庄内サービスパスポート～オペラな庄内～」（2月1日～11月1日）。大阪音大で催される一部の演奏会の来場者に配布されるクーポン付き冊子で、お得に庄内のお店を楽しんでもらうものです。

また、100周年記念オリジナル・ワインも販売。「オペラ」と名付けられたワインは、同大学がザ・カレッジ・オペラハウスで公演したモーツァルトの歌劇「魔笛」を聴かせたもの。オペラ公演 歌劇「ファルスタッフ」では、記念ワイン付観覧席が販売され、一般にもWeb上で販売されました。

加えて、今年で5回目を迎える庄内バル（11月6・7日）。大阪音大卒業生らがまちのあちこちで生演奏を披露する「音めぐり」が名物のひとつ。食と音楽でまちを盛り上げます。

欧州を思わせる店内とイタリア料理は
留学経験のある音大生やOB、先生たちに
「懐かしい」と言ってもらっています

「オペラな庄内」に参加した
cafe SIKKIM　平野元さん、雅子さん夫妻

創立100周年記念ワイン「オペラ」

兼田恵美さん（庄内西町）

冊子を必ず持って出かけて、
家族や友だちとの
食事に使いました

新たな庄内の活性化に向けて

豊中市では、平成26年3月に「（仮称）南部コラボセンター基本構想」を策定し、南部地域活性化の拠点づくりを地域住民や地元企業、NPOや大阪音大とともに進めています。

密集市街地の整備や人口減少などの課題もありますが、いくつもの商店街や市場がある駅前のにぎわいや界隈性は庄内の大きな魅力のひとつ。様々な職種に携わる多彩な人の個性も相まって、北摂の他の地域にはない個性的な魅力を創り出しています。

そんな中、大阪音大では平成28年度から新しく「ミュージックコミュニケーション専攻」を創設し、音楽で人と社会をつなぐ人材育成に取り組みます。

こうした新たな若い人材も加わって、庄内に息づく魅力の新たな創造・発信が始まります。